

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当連結会計年度の世界経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により各国で経済活動が大きく制限され、非常に厳しい状況となりました。わが国経済も、コロナ禍で特定産業を中心に社会隔離措置の影響が顕在化し、景気は急速に悪化しました。

住宅市場においては、貸家の減少に加えて昨年10月の消費税増税に伴い持家も落ち込んだことから、新設住宅着工戸数は前年実績を大きく下回りました。

このような状況下、当社グループは、顧客獲得に向けて営業力の強化と施工体制の拡充を推進したほか、非住宅部門への積極的な営業を展開するとともに、粗利益率の改善に努めました。

その結果、2020年3月期の連結業績は、売上高923億90百万円（前期比0.5%減）、営業利益11億

81百万円（同27.9%増）、経常利益13億47百万円（同16.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益8億44百万円（同10.2%増）と、減収増益になりました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、大幅な移動制限や人との接触削減の措置が採られ、その副作用として経済活動が停滞していることから、建設業界も厳しい環境が続くと予想されます。

当社は、監査等委員会設置会社への移行を予定しています。取締役会の監督機能のさらなる強化と意思決定の迅速化と機動性の強化を通じて、コーポレートガバナンス体制の充実を図ってまいります。

あわせて、今後の経営環境の急速な変化が予想される中、2020年10月1日をめどに会社分割の方式により持株会社体制へ移行して、経営資源の獲得と配分を適時に実現し機動的かつ柔軟な経営判断を可能にするグループ運営体制を構築することとしました。

また、新築住宅需要の減少が見込まれることから、リフォーム事業の拡大を目指します。2020年4月1日には、首都圏を中心にマンションの大規模修繕工事を手掛けている「株式会社フリー・ステアーズ」を完全子会社化しました。今後、大規模修繕工事時期を迎えるマンションの棟数増加が見込まれることから、本事業の拡大推進を図りたいと考えます。

新型コロナウイルスによる危機がいずれ収束し、自由な経済活動が再開される時に向けて「工事」「販売」「配送」「製造」のさらなる拡充を目指します。

なお、2020年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された1単位（100株）以上保有の株主様を対象として、QUOカード2,000円分を一律贈呈させていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後一層のご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2020年6月



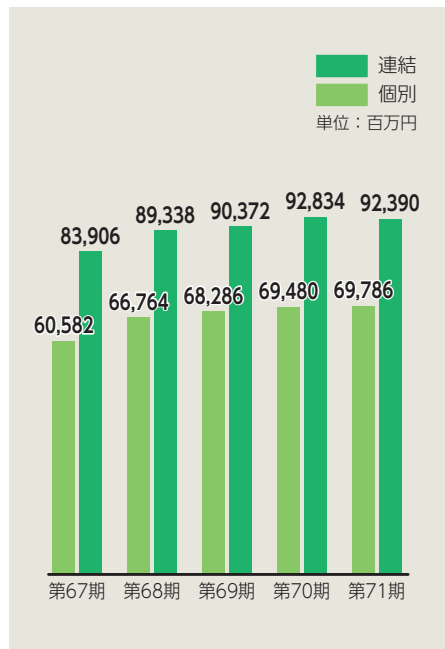
代表取締役社長 桑澤 嘉英



KUWAZAWA REPORT 202003

第71期 事業報告

売上高の推移



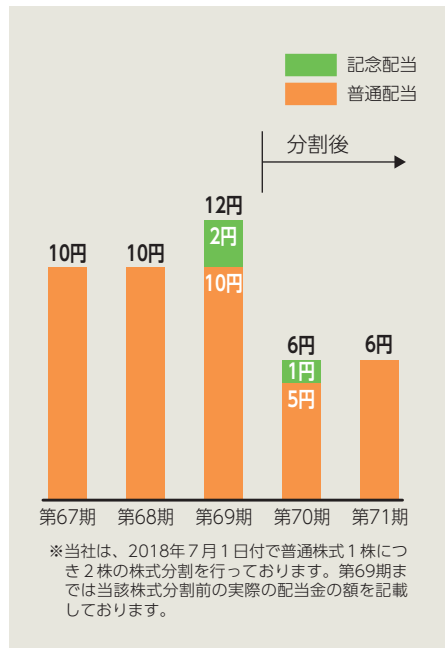
経常利益の推移



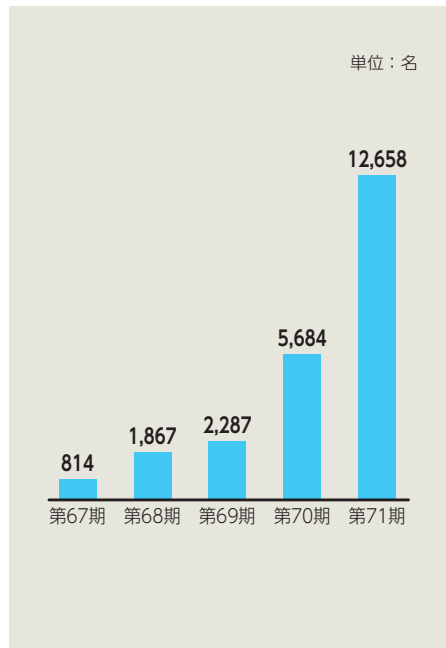
純資産の推移



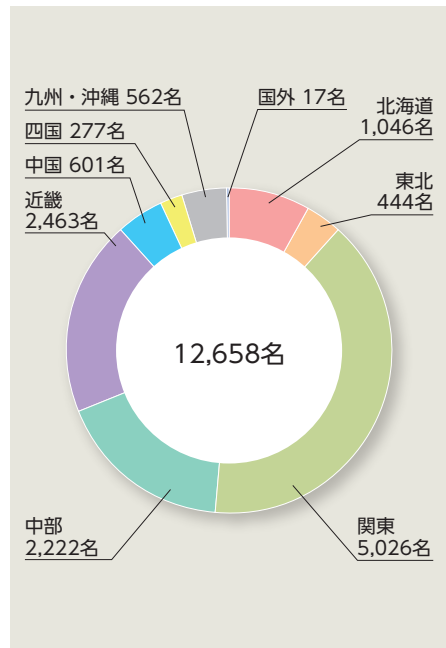
1株あたり配当金の推移



株主総数の推移



株主居住地別分布状況



配当金支払いに関するお知らせ

当社の第71期期末剰余金の配当につきましては当社定款第47条の規定により、2020年5月15日開催の取締役会で下記のように決定しましたのでご通知申し上げます。

記

1. 期末配当金：1株につき6円（普通配当6円）
2. 支払開始日：2020年6月11日
3. 配当金のお受け取りについて

同封の「第71期配当金領収証」により、銀行取扱期間中に指定取扱銀行でお受け取りください。

銀行振込をご指定の株主様には、「お振込先について」また、株式数比例配分方式を選択の株主様には、「配当金のお受け取り方法について」を同封しておりますので、ご確認くださいようお願い申し上げます。

以上

「持株会社体制」 および 「監査等委員会設置会社」 への移行について

「持株会社体制」 への移行について

Q：何のために持株会社体制に移行するのですか？

A：次の2点が大きな目的です。

①持株会社を核としたグループ経営の強化

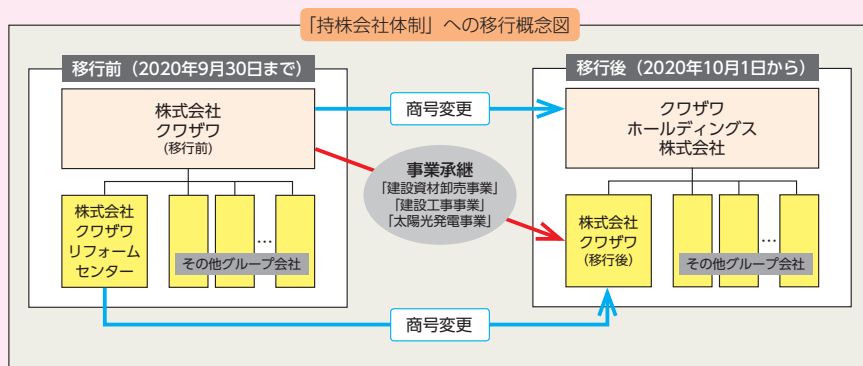
⇒経営資源の獲得と適切な配分を実現し、グループの全体最適と、各事業の個別最適のバランスを考慮した戦略的マネジメントにより、グループ経営の強化を図ります。

②個別事業の競争力強化

⇒各事業の市場環境に適した機動的な業務遂行と、個別事業における責任・権限の明確化および意思決定の迅速化により経営効率の向上を図り、個別事業の競争力を強化します。

Q：持株会社への移行後のグループ体制はどうなるのですか？

A：持株会社のクワザワホールディングス株式会社は、グループ経営を担う機能に特化し、コンパクトな体制の下で運営を行います。
一方、事業会社の株式会社クワザワは、建設資材卸売事業・建設工事業・太陽光発電事業を株式会社クワザワリフォームセンターに分割すると同時に、「株式会社クワザワリフォームセンター」を「株式会社クワザワ」に商号変更し、より効率的かつお客様視点での運営を行うことで、さらなるブランドの向上を図ってまいります。（下図参照）



Q：株主や株式価値にはどんな影響がありますか？

A：移行前の株式会社クワザワの株主の皆様は、持株会社体制への移行後はクワザワホールディングス株式会社の株主となり、クワザワホールディングス株式会社として現在の市場において上場を維持する予定です。
一般的に企業価値につきましても、傘下のグループ会社を含めた連結合計がその評価対象となりますので、持株会社移行後もグループ全体としての株式価値は変わりません。

今回の株主総会に上程いたします第1号議案および第2号議案の主目的でもある「持株会社体制への移行」「監査等委員会設置会社への移行」について、招集ご通知にてお知らせのとおりではありますが、株主の皆様にはより深くご理解をいただくため、補足説明として、Q&A形式、図解を用いてご説明いたします。こちらもご参考に、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

「監査等委員会設置会社」 への移行について

Q：そもそも監査等委員会設置会社とは何ですか？

A：監査等委員会設置会社とは、株式会社のガバナンスの形態のひとつです。
監査役会を設置しない代わりに、取締役を「監査等委員である取締役（＝取締役をチェックする取締役）」と「監査等委員である取締役以外の取締役」に区別します。「監査等委員である取締役」については3名以上であることや、過半数が社外取締役であることが必要となります。2019年7月時点で東京証券取引所上場企業の約4分の1の企業が監査等委員会設置会社を採用しています。（東京証券取引所コーポレートガバナンス情報サービスより参照）

Q：監査等委員会設置会社に移行するメリットは何ですか？

A：メリットは大きく以下の3つです。

①監査・監督機能の高度化

⇒社外取締役が過半数を占める監査等委員会が、取締役の職務執行に係る監査を行うとともに、各監査等委員が取締役会の決議において議決権を行使することで、経営に対するモニタリング機能を強化し、監査・監督の実効性向上につながります。

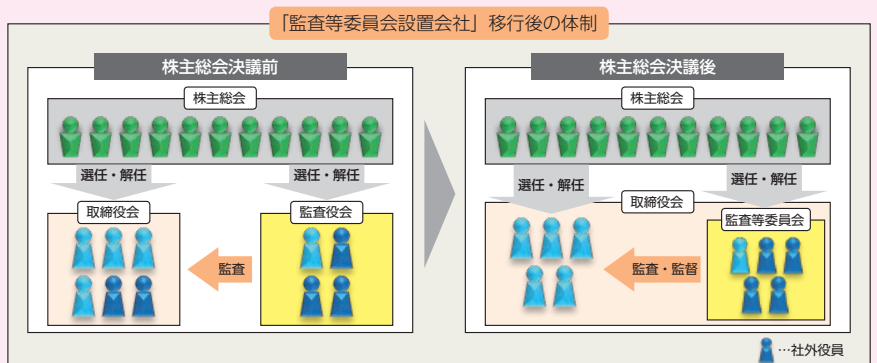
②経営の機動性向上と取締役会における審議の充実

⇒個別の業務執行に係る決定権限を、取締役会から業務執行取締役へ委任することが可能となり、意思決定の迅速化を図るとともに、特に重要性の高い事項に取締役会の審議を充実させることができます。

③持株会社体制になじむ機関設計

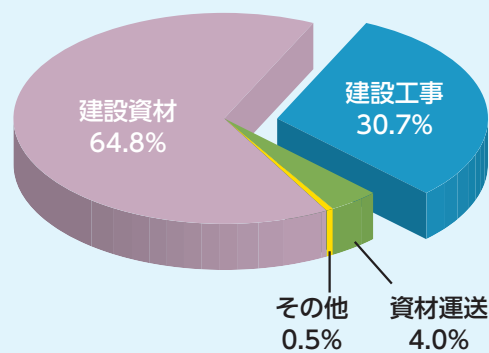
⇒現在の株式会社クワザワは事業持株会社であり、取締役会での議案等は、株式会社クワザワ個別のものとグループ会社に係るものが混在しています。持株会社体制への移行に伴い、現在の株式会社クワザワの取締役会における議案は、大半が持株会社体制移行後の株式会社クワザワに移行し、クワザワホールディングス株式会社の取締役会では、M&A、連結決算、株主総会、コーポレートガバナンス・コードなどに関する議案に限定されます。また、監査等委員会設置会社は、監査役会設置会社と比較して必要な役員数が少なくコンパクトな機関設計となります。よって、監査等委員会設置会社は、純粋持株会社であるクワザワホールディングス株式会社になじむ機関設計といえます。

監査等委員会設置会社に移行することで、監査・監督機能と業務執行責任を明確にし、透明性の高い経営に努め、事業再編や戦略投資を含めた経営のスピードを一層高めていきます。



【グループ会社紹介】

＜連結売上高セグメント別構成比率＞



『信頼に応える技能集団！』－株式会社クワザワ工業

当社グループの建設工事セグメントの中核を担う株式会社クワザワ工業は「信頼に応える技能集団！」をモットーにお客様満足を目指しています。

同社は1963年2月に株式会社桑澤商店（現、株式会社クワザワ）より分離、直系の工事会社として「桑澤建材工業株式会社」の商号で設立されました。オフィスビル・マンションの新築工事を主幹業務として、50年を超える歴史と実績により積み上げられた技術、なかでも内装仕上工事の高い施工力を武器に確かな工事をお届けしています。

2018年には当社グループの本拠地として、同社の技術の粋を結集し、私たちの理想のオフィス「クワザワグループ本社ビル」（札幌市白石区）が完成しました。2019年度は、北の大地の玄関口「新千歳国際線旅客ターミナルビル施設再整備工事」、札幌都心部の「大同生命札幌ビル再開発プロジェクトmiredo（ミレド）」、自然に抱かれたリゾート「ニセコHANAZONOリゾート」および「パークハイアットニセコHANAZONO」など様々な内装工事を施工いたしました。そして、東京オリンピック・パラリンピックの会場となる新国立競技場の内装工事にも携わりました。建設工事分野で長年にわたって培ってきた技術と信頼。それがクワザワ工業の大切な財産なのです。



クワザワ工業の技術の結晶「クワザワグループ本社ビル」

【株主優待QUOカード2,000円に！】

当社は株主優待制度を拡充し、1単元（100株）以上保有の株主様へ贈呈するQUOカードの額面金額を1,000円から2,000円へと増額いたしました。これは、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、当社株式への投資の魅力を向上させ、より多くの皆様に当社株式を継続的に保有していただくことを目的としたものです。

今回の拡充は、2020年3月31日現在の株主名簿に記載または記録されている株主様より適用させていただきます。

マスコットキャラクター「たんたん」をご紹介します

今回の株主優待QUOカードの絵柄にも採用されている当社グループのマスコットキャラクター「たんたん」についてご紹介します。

当社創業者の桑澤清は、店の知名度を高めるべく大きな狸像を店頭に設置しました。評判を呼び、当社のシンボルとなったこの狸像をモデルとして生まれたのが、当社マスコットキャラクターの「たんたん」です。「たんたん」の愛称は、1979年に一般公募で寄せられた1,359通の中から、当時4歳の男の子の命名により決定しました。

現在「たんたん」は、「住設建材フェア in ほっかいどう」等グループ各社のイベントで活躍するなど、当社グループのアイドルとしてお客様に親しまれております。

→
当
時
の
愛
称
募
集
告
白



創業当時の狸像（1935年）



現在の「たんたん」